

教科	国語	科目(単位数)	古典探究(2)	学年	3	類型	普通科
学習目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>						
期間	単元(学習内容)	評価基準【知識・技能】	評価基準【思考・判断・表現】	評価基準【主体的に学習に取り組む態度】	評価方法		
【1学期】 4月～5月	①古文 説話(三) 「浦島太郎」(御伽草子) 【領域：読むこと】	・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにしようとする。 ・ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解できる。 ・ 文語のきまりについて理解できる。	・ 昔話として現代まで継承された話を読み、現実と非現実が入り混じる世界に生きる登場人物の心境を読み取ることができる。 ・ 『御伽草子』という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉えることができる。	・ 『御伽草子』を読み、作品の中で和歌が果たす役割に注意しながら、内容を積極的に捉えようとしている。 ・ 学習の見通しをもって昔話の由来となった古典を読み、言語文化の継承に関心をもつとともに、『御伽草子』の特徴について、理解を深めようとしている。	知：指名音読・定期考査 思：発問評価・調査とまとめ・定期考査 態：授業態度・発表・報告・学習課題の提出・ノートの提出		
【1学期】 6月～7月	②漢文 逸話 「不顧後患」(説苑) 【領域：読むこと】	・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにしようとしている。 ・ 我が国の文化と外国の文化との関係について理解できる。 ・ 訓読のきまりについて理解できる。	・ 古代における臣下の立場を理解するとともに、呉王に対する少孺子の説得の巧みさを読み取ることができる。 ・ 逸話という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉えることができる。 ・ 書き手の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価することができる。	・ 積極的に逸話を読み、臣下の立場にある少孺子の心情と、少孺子が呉王を説得するためにとった方法とを説明しようとしている。	知：指名音読・定期考査 思：発問評価・調査とまとめ・定期考査 態：授業態度・発表・報告・学習課題の提出・ノートの提出		
	③古文 「門出」(更級日記) 【領域：読むこと】	・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにしようとしている。 ・ 文語のきまりについて理解できる。	・ 晩年になってまとめられた自伝的日記を読み、少女時代の自分を客観的に見つめた作者像を読みとることができる。 ・ 日記文学という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉えることができる。	・ 学習の見通しをもって『更級日記』を読み、晩年に書かれた自伝的日記であることに注意しながら、構成や展開を捉えようとしている。 ・ 内容を的確に捉えるために、文語の決まりを理解し、積極的に説明しようとしている。	知：指名音読・定期考査 思：発問評価・調査とまとめ・定期考査 態：授業態度・発表・報告・学習課題の提出・ノートの提出		
【2学期】 9月～10月	④漢文 項羽と劉邦 「鴻門の会」(史記) 【領域：読むこと】	・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにしようとしている。 ・ 我が国の文化と外国の文化との関係について理解できる。 ・ 訓読のきまりについて理解できる。	・ 登場人物の描写を読み解くことを通じて、戦乱の時代を生きた人々の人物像について考察を深めることができる。 ・ 史伝という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉えることができる。 ・ 作者の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価することができる。 ・ 史伝を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養うことができる。	・ 各場面の展開を整理し、登場人物の言動から、それぞれの心情や性格を進んで捉えようとしている。	知：指名音読・定期考査 思：発問評価・調査とまとめ・定期考査 態：授業態度・発表・報告・学習課題の提出・ノートの提出		
【2学期】 10月～11月	⑤古文 物語(二) 「光る君誕生」「若紫」(源氏物語) 【領域：読むこと】	・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにしようとしている。 ・ 主として敬語表現に関する文語のきまりへの理解する。	・ 歌物語と作り物語の二つの系譜を受け継ぐ長編物語を読んで、人物造形や心理描写の一端の理解を深めることができる。 ・ 長編物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉えることができる。	・ 今までの学習を生かして長編物語をよみ、人物造形・心理描写・和歌の役割などに注意しながら、積極的に内容を捉えようとしている。 ・ 内容を的確に捉えるために、作品の中で使われる敬語表現を積極的に理解して、説明しようとしている。	知：指名音読・定期考査 思：発問評価・調査とまとめ・定期考査 態：授業態度・発表・報告・学習課題の提出・ノートの提出		
【2学期】 11月～12月	⑥漢文 項羽と劉邦「四面楚歌」(史記) 【領域：読むこと】	・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・ 我が国の文化と外国の文化との関係について理解を深める。 ・ 訓読のきまりについて理解を深める。	・ 追い詰められていく項王の心境を読み取り、人間の生き方についての考えを深めることができる。 ・ 史伝という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉えることができる。 ・ 作者の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価することができる。 ・ 史伝を読み、自分のものの見方や考え方を深める姿勢を養うことができる。	・ 積極的に史伝を読み、追い詰められていく項王の心境を捉えようとしている。 ・ 「四面楚歌」と「鴻門の会」とを粘り強く読み比べ、それぞれに描かれた項王の人物像の違いと、その違いが生じた理由を説明しようとしている。	知：指名音読・定期考査 思：発問評価・調査とまとめ・定期考査 態：授業態度・発表・報告・学習課題の提出・ノートの提出		
【3学期】 1月～2月	⑦古文 物語(二)「弓争ひ」(大鏡) 【領域：読むこと】	・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにしようとしている。 ・ 文語のきまりについて理解できる。	・ 歴史物語という、実際の歴史に取材した物語を読み、宮中を中心とする権力者たちの姿の一端に触れることができる。 ・ 歴史物語という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉えることができる。	・ 今までの学習を生かして歴史物語を読み、構成や内容を積極的に捉えようとしている。 ・ 内容を的確に捉えるために、作品の中で使われる文語のきまりを積極的に理解しようとしている。	知：指名音読・定期考査 思：発問評価・調査とまとめ・定期考査 態：授業態度・発表・報告・学習課題の提出・ノートの提出		
【3学期】 2月～3月	⑧漢文 諸家の思想 「孟子」「老子」「莊子」「韓非子」 【領域：読むこと】	・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにしようとしている。 ・ 思想を述べた文章の特徴について理解できる。 ・ 我が国の文化と外国の文化との関係について理解できる。 ・ 訓読のきまりについて理解できる。	・ 『孟子』・『老子』・『莊子』・『韓非子』を読み、古代中国思想について思考を深めることができる。 ・ 思想という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉えることができる。 ・ 書き手の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価することができる。 ・ 思想を述べた文章を読み、自分のものの見方や考え方を深めることができる。	・ 『孟子』を読み、孟子が理想とする政治と「仁」との関係粘り強く説明しようとしている。 ・ 積極的に『老子』を読み、世間の常識に反する老子の考え方をまとめ、説明しようとしている。 ・ 積極的に『莊子』を読み、比喩や寓言にこめられた莊子の主張について説明しようとしている。 ・ 積極的に『韓非子』を読み、韓非が主張する国を治める方策について説明しようとしている。	知：指名音読・定期考査 思：発問評価・調査とまとめ・定期考査 態：授業態度・発表・報告・学習課題の提出・ノートの提出		
使用教材(教科書・副教材)	高等学校 標準 古典探究(第一学習社)・「新訂版 最新国語便覧」(浜島書店)・「トリプルアプローチ 字義で覚える常用漢字」(浜島書店) ・「体系漢文」(数研出版)・「やさしくくわしい古典文法ノート」(尚文出版)						
学習方法	・ 音読や黙読を通じ、古典中の言葉についての感性を身につける。 ・ 授業中は黒板を写すだけでなく、行間の説明等のメモを行う。 ・ 便覧や辞書等を活用し、疑問を解決しようとする進取の態度で臨む。 ・ 文法・句法を習得して、より正確な古典の文章理解力を身につける。 ・ 授業の理解度向上のために「日々の課題」にも着実に取り組む。 ・ 話し合い活動等の協働学習に積極的に参加し、自分の意見を深める。 ・ 古典の文章読解は日々の積み重ねが重要。授業で理解できなかった事項等は便覧や辞書等で調べ、積極的に担当者に質問し解決する。						
評価について	各単元で設定された目標に対する観点別評価を行う。評価方法は、授業態度や授業内の協働学習での取り組み、小テスト、提出物、定期考査などである。各単元における評価方法は、上記【※評価方法】の通りである。各単元及び各学期における観点別の評価と、学年末における観点別の評価をもとに総合的な評価を行い、学年末に5段階の評定に総括する。						